

## 研究所日記

# 冬の八方尾根酸性雨測定所の管理 ～深雪を歩いて登る～

八方尾根スキー場の上部に環境省の「越境大気汚染・酸性雨長期モニタリング計画」及び「東アジアモニタリングネットワーク (EANET)」に登録された国設八方尾根酸性雨測定所があります。この測定所は27の国内モニタリング地点の中で最も標高が高く1,850mの雲上に設置されています。標高1,000～11,000mの大気は自由大気 (free air) と言われ、空気 (大気) と地面の摩擦が少なく、大気が移動しやすいことから越境大気汚染をモニタリングするのに適しています。

測定所には降水 (雪) 自動捕集装置の他、大気汚染物質 (二酸化硫黄など) や気象の常時観測機器が多数設置されており、通年観測を行っています。当所では降水 (雪) 自動捕集装置で捕集された降水の回収・分析や観測機器のメンテナンスを行なっています。通常、2週間に1回の頻度で測定所へ行きます。まずスキー場に設置されたゴンドラリフトで標高1,400mの兔平まで登り、続いて2基のリフトを乗り継いで標高1,830mまで登り、そこから先は徒歩となります。しかし、最上部のリフトは滑走面の一部が長野オリンピックで話題となった国立公園第1種特別地域に指定されており、植生の保護のため十分な積雪になるまで運行しません。また、冬場の悪天候時にはしばしば運休します。そのため、例年11月・12月は機材を背負って最大斜度30度、長さ598mの



雪の中を測定所へ  
(平成21年12月24日)

リフト下をスノーシューを履いて徒歩で往復します。

寒波が押し寄せた直後の12月21日は、兔平まで登ったところで上部の2基のリフトが強風で停止してしまい、測定所へ着くことができませんでした。翌22日もリフトの運行を確認してから再度測定所に向かいましたが、またもや強風により2基のリフトが停止してしまいました。仕方なく、リフト2基分 (長さ1,380m) を歩いて登り始めたのですが、上部リフトのオリンピック男子滑降スタート付近 (標高1,765m) で猛吹雪に阻まれ、あと僅かのところで断念して下山しました。(この日の最大風速は25m/s、気温-13℃でした。) 結局、予定日から3日遅れの24日に、3度目の挑戦で測定所にたどり着くことができました。(写真)

冬のリフト下での屋外作業は時間との勝負となります。風速20m以上は日常茶飯事で、細かい作業を行う際に手袋を取ることがありますが、気をつけないと5分程度で凍傷になります。しかし、室内は割合暖かく、暖房用の赤外線ランプと観測機器類の放熱により、外気温が-10℃でも室内は10℃程度あります。この日は、約2時間で試料の回収と機器のメンテナンス作業を終了しました。

風が強い冬は八方尾根酸性雨測定所が正に自由大気圏に設置されていることを感じることができます。

(原田 勉  
kanken-junkan@pref.nagano.jp)



測定所内での作業

次号の予告

次号は年度当初の発行となります。来年度の事業の「お知らせ」、季節感のある「最近の話題」等を掲載する予定です。

編集後記

- 第31号6ページ『報告』「第1回 ナラ枯れ跡地の植生を調べる (飯山市)」の記事中、「クロムジ」との記載は「ムクロジ」の誤りです。訂正してお詫びします。
- 本誌は、当研究所の活動や長野県の環境保全及び保健衛生に関する情報を提供することが目的です。今年度は特に、発行時期にふさわしい、読者に興味を持っていただけるような話題をできるだけわかりやすくお伝えすることを心掛けてきました。お気づきのことがありましたら、お気軽にご連絡ください。  
(編集担当：企画総務部)